

道徳分科会報告

会場 2階・からまつ

司会・進行 山田 岳史

参加者数 約 30 人

資料本数 21 本（すべて発表）

道徳分科会は1 枠を使って行われました。提出された資料は全部で 21 本でした。3 本のプランが出ていたので、その検討を中心にしていきました。

まず、坪郷さんのプラン〈マイノリティ〉の検討を行いました。マイノリティを「社会的に少数派である」「そのことによって、不利益を受けたり差別されたりしている」と定義し、左利きや目が見えないなどの身体的マイノリティから考え、次に性的マイノリティについて考えます。坪郷さんの授業では、この部分での反応は様々で、それゆえにこのプランを「大人用」としているとのことでした。性的マイノリティの割合に関するデータについて、どれくらいの信憑性があるかなどの議論はありましたが、大人として知るに値する、というか知っていないといけない内容だと強く感じました。



続いて、飯塚さんのプラン〈父のひとこと〉の検討を行いました。これは東京書籍の副読本『明日をひらく1』にある話をプラン化したものです。「副読本なかにもえいいものがあるというのは、大きな発見かもしれない」と飯塚さん。それに対しては「確かにそうだけど、やはり仮説のプランと比べて、何かしっくりこない面がある」「それ

は、副読本にある話はとても〈道徳的〉で〈いい話〉だからじゃないか」という指摘がありました。しかし、それでも、〈父のひとこと〉はとてもよくまとまっていると思いました。小沢さんからも〈父のひとこと〉の授業報告がありました。小沢さんからは他にも、〈モンジ〉についての報告もありました。

峯岸さんからは、黒田康夫さん作成のプラン〈夏の坂道〉の紹介がありました。これは、黒田さんが中学生のときの思い出話です。とても心が甘酸っぱい気持ちになる、そんなお話でした。ただ、まだ中学では授業にかけられたことがないとのことなので、もしこれから授業にかけられた方には、ぜひ報告をしてほしいです。



鈴江さんからは「卒業する皆さんへ 応援メッセージ」という資料の発表がありました。6年生の担任から、「卒業前になって指導が入らないので、いろいろな先生から話をしてほしい」ということで話すことになったのですが、実はその子供たちは、鈴江さんが3・4年生のときに担任していた子供たちだったのです。そこで鈴江さんは、板倉先生の『たのしく学び続けるために』を紙芝居にして読み進めたということでした。また、最後には、特別支援学級の担任という立場から、読み書きの脳機能に障害のある方の話を紹介したそうです。

最後に、山田が授業記録 11 本と、「道徳主任になって」という資料の発表をさせていただきました。今年初めて道徳主任になり、「自主参加の道徳研修会」「授業記録の公開」「学年の道徳は仮説のプランを中心に」というやり方で、少しでも多くの人に楽しい道徳プランを知ってもらいたいと思っています。

3時間、終始明るく楽しい雰囲気分で分科会を進めることができました。参加者のみなさん、資料発表をしてくださったみなさん、ありがとうございました。